

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270100732		
法人名	医療法人 仁風会		
事業所名	グループホーム雲陽の里		
所在地	松江市大庭町1459-1		
自己評価作成日	令和6年3月	評価結果市町村受理日	令和6年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和6年4月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い共有スペースの中でゆつくりと利用者さま一人一人のペースの合わせながら、個々の力を活かせる生活を送ってもらえるようなサポートを心がけている。周囲には季節ごとに梅や桜・ボタン等の花が咲き、近くの田仕事の様子を見ながら散歩が出来たり、プランターを利用して花を育てる環境がある。また、医療との連携が充実しており、健康管理の体制が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の法人には精神科の病院をはじめ、デイケアや社会復帰施設など多くの事業所があり、グループホームを含め広い敷地を有している。周辺には畑や田んぼがあり、街中ではあるが自然を感じられる恵まれた環境にある。病棟と廊下で繋がっており、医療面の連携がスムーズに行われ重度化への対応も可能になっている。ここ数年はコロナ禍の為従来から続いていた外部との関わりの機会も絶たれ、昨年初めには利用者からコロナ感染者が出たため、厳重な対策を継続せざるを得ないという慎重な思いが伝わってきた。コロナ感染症への理解が難しい利用者への対応にストレスを感じつつも、なんとか日々の楽しみになるように職員間で話し合われている。昨年7月からは食事が病院から届くように業務改善され、利用者のケアの充実と共に職員の負担の軽減にも繋がっている。大半の利用者が精神科を経ての入所になっており、対応の難しさがあるようだが、今後に於いても幅広い研修をすることでレベルアップに繋がっていただきたい。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念をホーム内に掲示し、職員は共有・把握をしている。	開所からの理念を継続している。法人全体で新人研修が行われており、その中で理念に関する話もある。新しい職員も病棟を経験して入っており、ここでも指導者を付け業務をしながら考え方を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症流行以前はボランティア依頼や中学校・高校の実習受け入れを行っていたが、感染症予防の為に現在も受け入れができていない。	以前はボランティアが多くあったが、コロナ感染を経験したことから、外部との関わりには慎重になっており交流の機会はまだない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりに招かれて法人から勉強会に出向く事もあったが、感染による自粛以降はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本的には施設内に開催場所を戻し、地域の方に複数参加をいただき意見を聞く機会を持っている。	隣の法人で開催していたが、今年度になってからはグループホーム内で行っている。地域からは自治会長、社協関係者、民生委員、元民生委員、包括の参加を得て定期に開催。入所者の状況を伝え意見交換に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡を取るようには考えているが、日常的な連絡相談は十分に行えていない。	運営推進会議には毎回包括から参加があり、専門的立場から助言を得ている。生活保護担当課からは定期的に訪問があり情報を共有するようになり、社協など関係機関との関わりもある。介護保険課には問い合わせをしたりいい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・行動制限の具体的な内容については理解できている。法人とは別に身体拘束適正化委員会を設け継続的な啓発を行っている。	気分転換に外の空気を吸いに出る方がおり、見守りながら歩くようにしている。身体拘束の委員会に加え法人全体で行動制限最小化委員会や苦情解決委員会も行われており、事例検討や外部からの助言も得て意識を高めて取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修や行政主催の研修会に参加し伝達研修を行っている。また金銭的虐待が疑われる案件について行政に相談し対応を検討した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については理解しており成年後見制度の利用を検討する場面もあった。また日常生活支援事業の利用について相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を用い、時間を取って説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のケアについては面談時や介護計画書の説明時に本人・家族に状況説明・意向確認をしている。又ホーム内に苦情対応の職員・外部担当者を掲示し、毎月外部委員を含めた苦情解決委員会を開催している。	家族には電話や面会時に意見を聞くようにしている。毎月ではないが普段の生活や行事の写真で便りを作成し送っており、意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にインシデントを考察する際や、勤務交代の申し送りの時に意見交換を行っている。	個人面談の必要性を感じながらもできない状況だが、管理者は夜勤の交代時間が1対1になれるので意見を聞く時間としている。申し送りでも意見を求めるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎月の勤務状況・資格取得の状況等を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には参加しているが、外部での研修を受ける機会は十分ではない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や研修参加の際に情報交換をしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込時や判定会議の前の施設見学、面談を通じて意向確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時や施設見学時の面談を通じて意向確認をしている。又入所後も面会時などの状況報告の時に意向確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族との面会時などで意向を確認し、対応について助言や援助をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力を定期的にアセスメントで確認し、出来る事をしてもらうあるいは一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症流行によりご家族様からの面会希望も減り関係性が薄れる事を憂慮しているが、本人からの面会希望は必ず伝え来所の依頼をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族の法事等への参加希望があった際も、感染予防対策を法人と検討しながら出かけてもらっている。	コロナ禍になってからは友人、知人で訪ねてくる方は殆どない状況。1人の方は運営推進会議の出席者に知り合いがあり、会議の際に出会うことができる。理美容には外部から来てもらっている。	いろいろな方法で今までの関係が継続するよう検討いただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間では自由に座ってもらい馴染みの方同士で話をされている。利用者同士の声掛けや促しもトラブルにならない限り見守るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケースの状況により連絡や面談などで相談支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で意向を確認しながらケア記録や申し送り・カンファレンスの中で共有している。	精神疾患で干渉するのを嫌がられる方があり距離感を意識しながら関わっている。言葉が出にくい方も多く気持ちを察するようにしている。うれしい顔が見れるように気持ちが落ち着くことを大切にしている。	個々の思いを大切にしながらより充実した個別ケアに取り組んでいただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時の情報共有や面談、入所後の本人・ご利用者の話から状況の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録・定期的なアセスメントで現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なアセスメントとカンファレンス、主治医への相談等、本人とは日々の関わりの中で、ご家族からは面談時の話等から意向を確認しながら介護計画を作成している。	担当を中心にアセスメントをしており、6か月に1回評価をまとめている。コロナ禍で集合して担当者会議はできていないが、家族には電話や面会時に意見を聞き計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に様子や職員の気づきなどを記録し、申し送りやカンファレンスの時に共有し、見直しなどを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前の様な法人内の施設利用と交流を持つ事がまだできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望も聞きながら、感染予防対策をとって訪問理美容を利用してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	概ね1か月ごとに定期受診をしている。その他の急変時など何かあれば日常的に相談を行っている。	精神科からの入所が大半で法人の精神科が主治医になっている。職員が付き添い月に1回隣の精神科の外来を受診している。訪問看護も週4回のペースで受けており、状況に合わせて指示が得られ家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する病棟看護師や訪問看護師に相談し、受診や処置の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関への情報提供・カンファレンスの参加・ご家族との連携などを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての方針について申し込み時・契約時に説明を行っている。また、個別のケースに関しては主治医を交えた家族との面談等に対応している。	看取りに対応する方針ではあるが、今まで看取りの実績はない。病状悪化に伴い精神科への入院や内科への入院もあるが、看取りには至っていない。重度化に向けては家族と話し合いながら進めており、今年度も特老入所のケースもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については研修等を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的な防災・避難訓練を実施している。又地域の防災協定にも参加している。	法人の多くの施設が隣接しており、昼夜共に支援が受けやすくなっている。自然災害は少ない地域だが、定期の訓練に加え消火器の訓練も行っている。隣の病院が高く建物が続いているので、協力して対応することとしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや態度に注意しながら対応している。	子ども扱いのような声かけや若者ことばの使い方など、適してない場合は注意することもある。法人内で開催されている虐待や身体拘束、接遇の研修に参加しており、ケアの基本として繰り返し意識を高めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な関わりの中で選択肢を提示し選んでもらったり、意向を確認しながら対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時に応じて様子をみながら無理や強引な対応にならないように、個々のペースに合わせた生活をしてもらっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは家族に用意してもらった物を個々の能力に応じて選んでもらったり、本人の意向を確認し乍ら訪問理容を利用してもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好は把握できている。出来る方には片付けをしてもらっている。また行事としておやつ作りや季節の野草の採取や下処理を全員で工程を分担して調理する事もある。	昨年7月より隣の病院から食事が届くようになっており、温めなおして盛り付けて提供している。コロナ禍により利用者が台所に入ることとはしておらず、調理に関わる場面は限られるため、おやつ作りを楽しむことがある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康状態や嗜好を把握し、状態や習慣に応じた支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の義歯洗浄等個別の能力に応じた声掛けや支援を行い、歯科衛生士に個別ケアについて相談している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、紙パンツ・パットを使用されていても、出来る限りトイレに誘導し排泄してもらうように支援している。	個々の排泄パターンを把握し定時誘導している。紙パンツにパットの使用者が大半で確認が必要な為、さりげなく声がけしている。できるだけトイレを使用するようにしているが、上がり降りがしにくい方は夜間のみオムツ使用するなど個々に合わせた対応としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態や食器等の工夫により水分量が確保できるよう状態を観察、主治医との連携等により行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ずつ入浴している。拒否のあるかたには再度の声掛けや時間帯・日にち調整したり、入浴にかかる時間も個々のペースに合わせてゆっくりと入ってもらう等一人一人に応じた支援を行っているが設備面の限界を感じる事もある。	やや大きめの家庭浴槽で深めの為、またげない方や浴槽に入るのを拒む方はシャワー浴対応としている。週2回入れるように計画しているが嫌がる方もあり、時間変更等個々に合わせた対応をとっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動参加や離床の促し等、生活リズムが乱れないよう心がけている。休息や就寝も個々の状態に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	能力に応じた介助で確実に服薬できるように支援している。病状変化についても記録に残し、主治医に相談している。服用している薬の作用。副作用のわかりやすいファイルをつくり職員全体が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、レクリエーション・掃除・洗濯等出来る事で役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺には散歩に出かけている。限定的ではあるが年2回の外出行事も再開している。親族の法要の際も感染対策等を協議して参加された。	コロナ禍で今までのように外出できていないが、施設周辺は自然豊かで眺めがいいので散歩に出たり、寒い時はドライブに出かけている。隣の病院に定期受診に行く際も外を回って行くようにしたり、外気に触れる機会を持つようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	心理的な不安を考慮してお金を所持しておられる方は有るが、実際に必要な物は希望を聞いて家族に依頼している。また、行事として買い物に出かけ支払いまでの支援をする事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が間に入って電話をしている。また、かかってきた電話も必ず取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さまのおられる場所からの音や光の具合に気を配りグリーンカーテンを設置したり、毎日の掃除で環境の変化を確認したりしている。また季節の花をよく利用される場所に置くようにしている。	道路から入っているので車の騒音も無く静かである。デイルームは天井が高くて明るく、外の景色がよく見え落ち着いた雰囲気を感じられる。隣の病院へ歩いて移動もできるようになっている。床暖とエアコンを併用して温度調節をしており、コロナ禍以降は特に換気には注意をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内の長椅子・居間のソファ・食堂のテーブル・和室等自由に座って過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	設置家具の他に、家具やテレビなどの持ち込みは自由で、仏壇を持ち込まれる等好みに合わせた部屋に出来るようにしている。	思い入れの有る物の持ち込みを薦めているが、施設所有のタンスや床頭台等があり、あまり多くの物持ち込まれてはいない。写真や贈られた花を飾ったり1人1人に合わせた部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者さま個々の能力を把握しながら、移動方法や作業の場所等を考えて生活を送ってもらえるようにしている。		